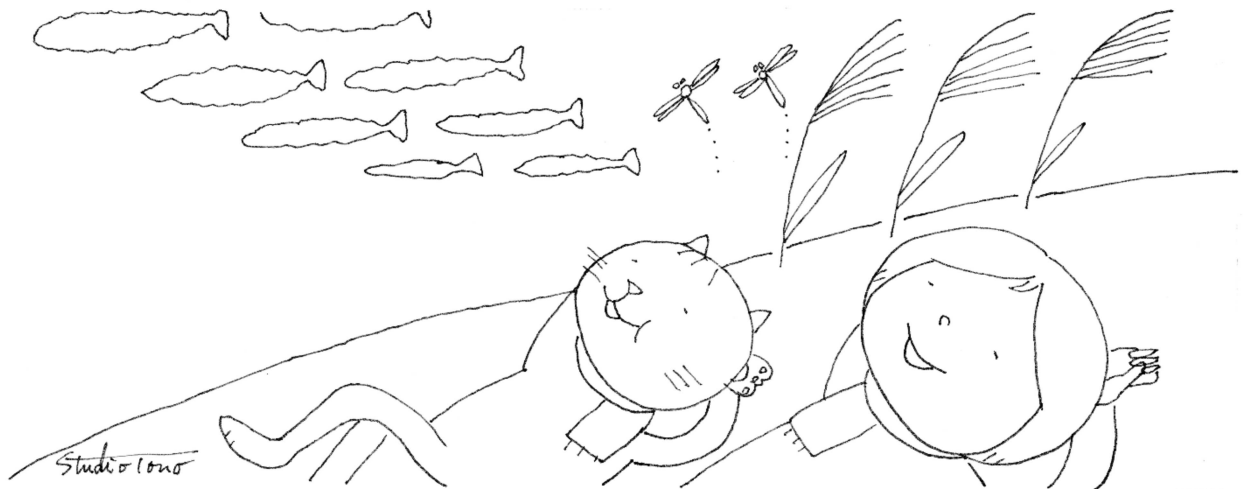


# この本よんだ？

～りいぶる BOOK プラス～



## シャドウ・ワーク 生活のあり方を問う

I. イリイチ 著 玉野井芳郎、栗原彬 訳 岩波書店 1998年 (A:フェミニズム)

著者のイヴァン・イリイチは現代産業文明への鋭い挑戦と警告で知られるウィーン生まれの歴史学者、社会哲学者、経済学者でもある。本書は6章から成り、著者によればエッセイ集だという。ただし、いわゆる文学的な随筆ではなく、論文の試論のようなものである。

イリイチの造語に「影の経済」がある。経済学で取り扱われる「貨幣経済」が生まれた時、貨幣化されないもう一つの領域が発生した。それが「影の経済」だ。「影の経済」では賃金の支払われない一種の労役が出現する。その良い例が主婦による「シャドウ・ワーク」である。そして「シャドウ・ワーク」は、夫の生活の必要条件となり、彼を雇用へと縛り付けているという。

「貨幣経済」も「影の経済」も双方ともが人間生活の自立と自存の基盤を破壊する。それは産業化される以前の社会に備わっていた大切な価値が損なわれることを意味する。「ヴァナキュラーな領域」など難解な用語が登場するが、読み終えたころには「経済成長」に対する見方が変わるだろう。

(0.S)



## 寂聴九十七歳の遺言

瀬戸内寂聴 著 朝日新書 2019年 (K:エッセイ・文学)



これは昨年11月に99歳で亡くなった瀬戸内寂聴が2019年に京都の寂庵において、朝日新聞の単独インタビューで語ったものを加筆、構成したものである。

元気だから百歳まで生きるかもとひそかに思っているとつい、最期を見据えながら今までの人生を振り返り、生き方についても死の捉え方についても優しく語りかけている。

「慈悲」はあげっぱなしの愛、笑顔を忘れてしまうと不幸が倍になる、人間の一番の美德は「やさしさ」など、寂庵で悩みをかかえた多くの人達に接してきた著者ならではの言葉はとても説得力があり、苦しんでいる人にいつもより添ってきた今は亡き彼女の姿が胸に迫ってくる。

まさに私達に残された「遺言」を御一読下さい。

(花賀)

## 戦争は女の顔をしていない

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ 著 三浦みどり 訳 岩波書店 2016年 (K:エッセイ・文学)



本書は、アレクシエーヴィチが、第二次世界大戦におけるソ連従軍女性から聞き取りを行い、その証言を記録したものです。戦時には、ソ連の多くの女性が、兵士として武器を手にして戦ったのです。従軍女性の多さ、そして、女性たちの可憐さや純粋さに驚きました。本書には戦争の史実ではなく、そこに関わった普通の人々の感情が書かれています。もちろん戦争は反対ですが、単純に誰かを責めることはできないと、私は思ってしまいました。アレクシエーヴィチはウクライナ出身の作家です。ウクライナが、第二次世界大戦やソ連からの独立を経て、現在ロシアから侵攻されていることを考えると、より複雑でつらい気持ちになります。ただ平和と安心を祈らずにはられません。りいぶる図書室には本書を漫画化した作品も置かれています。併せてぜひ読んでみて下さい。

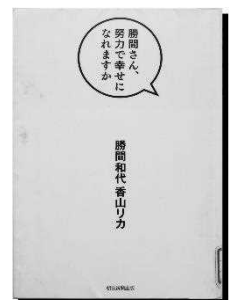
(A.T.)

## 勝間さん、努力で幸せになれるか

勝間和代、香山リカ 著 朝日新聞出版 2010年 (K:エッセイ・文学)

香山氏が「しがみつかない生き方」の本を書き、その中で「勝間和代を目指さない」と書いたことから、二人の対談が実現した。

バトルではなくリラックスした雰囲気でのことらしかったが、内容はハードなバトルの連続だ。生き方について、全く正反対の考えである。主に香山氏から勝間氏への質問攻めである。勝間氏の意見に対し、香山氏は「でも…でも…」を連発。本文中28回の「でも…」がある。どこまで対談しても接点がない。どちらが良い悪いではなく、こういう価値観があるのかと考えさせられる。対談後のお互いに宛てた手紙に、勝間氏は「その鋭い質問力をこれからも炸裂させてください」と書き、香山氏は「上昇の勝間さんと、下降の力ヤマが今後話す機会などない」と書いている。まるで水と油。皆さんはどう思われますか。



(はんちゃん)

## 砂漠の女 ディリー

ワリス・ディリー 著 武者圭子 訳 草思社 2011年 (J:自伝・評伝)



スーパーモデル、ワリス・ディリーの自叙伝。アフリカ・ソマリアの遊牧民の一族に生まれた著者が、どのような経緯で有名モデルとなり世界に羽ばたき、人生を歩んだかを描いたもの。スーパーモデルの階段を駆け上がりつつ、女子割礼の経験を公表し、世界的なベストセラーとなった本作。日本では考えられない砂漠での生活、ライオンとの遭遇、女子割礼の事実など、知っておきたいことがたくさん詰まった1冊です。本を読むのが苦手な方はDVD「デザート・フラワー」がおすすめです。(めい)

## 小さな木 あるがままに子育て

野村直子 著 小林マキ 絵 雷鳥社 2021年 (F:子育て)

著者は保育士や自然ガイド、園長の経験から保育者や子育て中の親に向けて「自然の中での保育・子育て」の研修やワークショップをしています。こどもを育むことと植物を育てることは似ている。子育てを「どんな木になるのか、どんな花を咲かせるのか」と楽しみながら、自分自身をも育てていく。こどもも親も成長する機会」ととらえています。



子育てをされていてイライラ・カリカルしてしまった時、自然の中に包まれると癒される、そんなメッセージや絵があふれた本です。(か)

## ニホンという滅び行く国に生まれた若い君たちへ

15歳から始める生き残るための社会学  
響堂雪乃 著 白馬社 2017年 (F:子育て)

今、ニホンという国では、「一見平和に見える日常の暗渠では、想像を絶する事態が進行している」ととらえて、そこで若者が生き抜くための指標とすべきことが書かれた本である。



201のテーマの見出し語がそのまま「目次」になっているので、壮大な目次を総覧しただけで、自分は本当に世の中のことを何も知らずに生きてきたように思ってしまう。

ちなみに目次1は「国会議員が作る法律は2割もない」、中ほどに「ニホンは独立国家ではない」、「著名人の言葉なら簡単に信じるといふ論理」、「考えさせないための『教育』」等々、そして最後の201は「世界が闇であるのなら自分が光になればいい」である。

どれも重いテーマで、とかく無関心でいたり、諦めてしまったりしがちな政治・経済・社会他あらゆる分野での「日常の暗渠」を事実にして立証し、若者のみならず私たちへもよく思考し良き一歩を踏み出すべきことを、たった10行以内の短文で解き明かしている。

言葉は平易でかつ簡潔、しかも敬体で書かれていて、あたかも著者と対面しているかのようで説得力があった。(大空)

## 猫のマルモ

大宮エリー 著 小学館 2015年 (K:エッセイ・文学)



りいぶるにぬいぐるみをお泊りさせるというイベントに、うちの「チャーミー」を参加させた。司書さん達に「いい子にしてみましたよ」と言われ、嬉しそうにしてたチャーミーは、私のために本を借りてきてくれていた。そのひとつがこの「猫のマルモ」である。

表紙にはチャーミー似の猫があり、チャーミーなりにタイトルと表紙で選んだのだろうと私はページを捲った。登場人物は全員動物で、絵本のような話と思いきや、会社の中で揉まれていく新人OL猫のマルモは、そのまま現代を映しており、社会人3年目の私にはあまりにも辛く泣いてしまった。チャーミーは何を思ってこの本を選んだのだろう。自分だったら絶対に借りない本だ。誰かに本を選んでもらうと、ともすれば自分の心が傷つきそうで避けてしまう本にも出会うことができる。

「猫のマルモ」は短編集だが、どれも現実社会を動物たちに置き換えた寓話になっており、どれもハッピーエンドで終わる。必ずひとつは、誰しもが自身の実体験にあてはめてしまうような話に出会えると思うので、是非読んでみてほしい。(菊山)

## 対談紀行 名作のなかの女たち

瀬戸内晴美、前田愛 著 岩波書店 1996年 (K:エッセイ・文学)

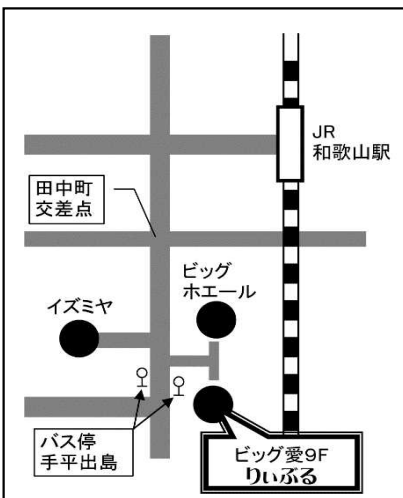
昨年11月に99歳で亡くなった瀬戸内寂聴さん。51歳のとき中尊寺で得度受戒し、96歳で初の句集を刊行。今年65歳で得度し、そのうち句集を出したいと考える私の憧れの人である。徳島県立文学書道館に彼女のコーナー(展示室)があり、何度も行った。



りいぶるに寂聴さんの本はいろいろあるが、オススメはこの本。国文学者の前田愛さんとの対談形式で名作の舞台を訪ね、作品に登場する女性について

語る。「たけくらべ」(菊坂町)に始まり、「細雪」(平安神宮)、「雁」(本郷)、「草枕」(熊本)、「斜陽」(玉川上水)、「放浪記」(尾道)、「墨東奇譚」(玉の井)、「夫婦善哉」(道頓堀)・・・最後に自作の「京まんだら」(祇園)と続く。読み終わると名作をまた読みたくなること必定。

晩年は幼児のような爛漫さをみせた寂聴さんだが、句集「ひとり」にある句「子を捨てしわれに母の日喪のごとく」の強烈なこと。なおこの作品は「晴美」時代のものであります。(紀生)



この本 よんだ? 第25号 (2022年10月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】

今春、りいぶるの職員に異動があり、新しい担当の方に私達の活動について説明しました。今までの活動の経緯など、どうしてこうなったのかという資料を探し、いろいろ忘れていたことを思い出しました。

★あなたも書評を書いてみませんか? ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。 E-mail [libreplus@yahoo.co.jp](mailto:libreplus@yahoo.co.jp)